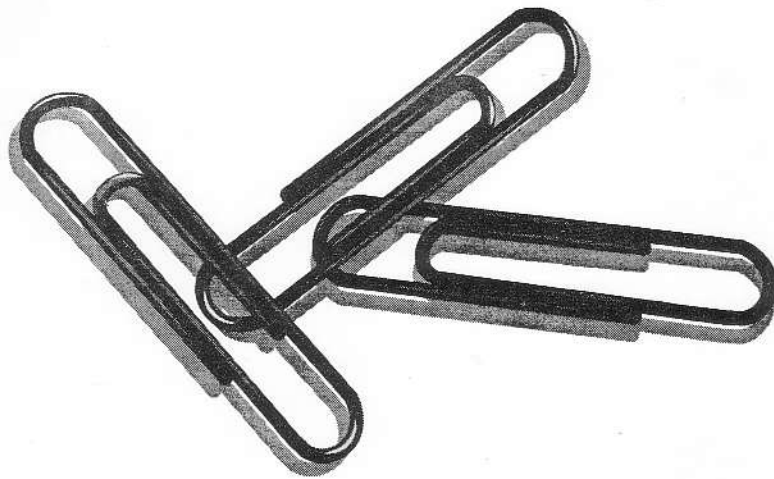


小学校における外国語活動指導資料

# コミュニケーション能力の素地を培うために



平成21年1月

小樽市教育委員会

## 目 次

### <理論編>

- 1 外国語の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 外国語活動の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 指導計画作成上の留意点・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 指導内容の取扱いと留意点・・・・・・・・・・・・ 5
- 5 小学校外国語活動Q&A・・・・・・・・・・・・・・ 9

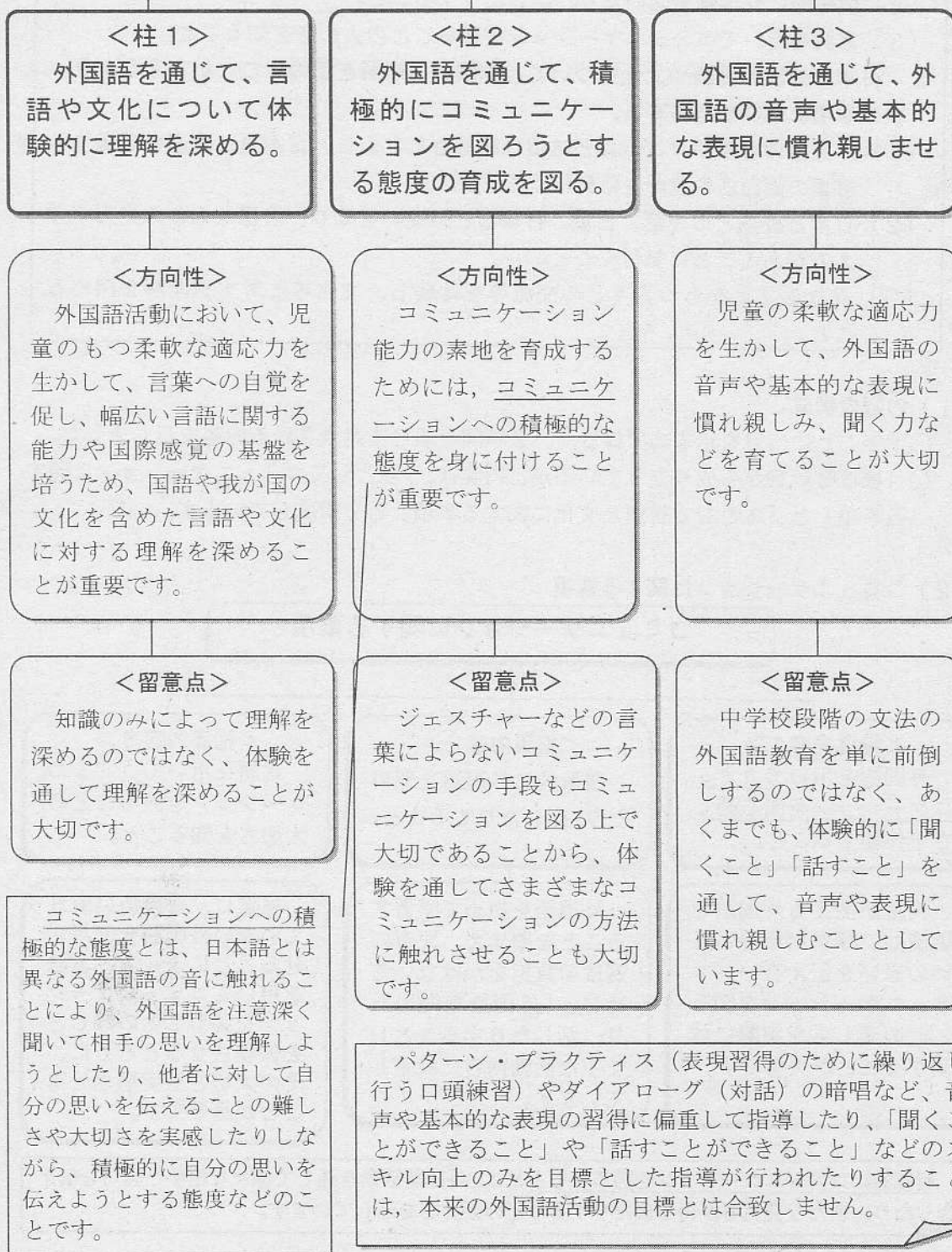
### <実践編>

- 6 年間指導計画の立案と考え方・・・・・・・・・・ 10
- 7 単元・授業の構成方法・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 8 ゲームの効果的な活用・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 9 評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 10 年間指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 11 指導の展開例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 12 クラスルーム・イングリッシュ・・・・・・・・・・ 23

# 1 外国語活動の目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

外国語活動の目標は、3つの柱からなっています。



## 2 外国語活動の内容

外国語の目標を踏まえ、次のように内容を設定しています。

[第5学年及び第6学年]

1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

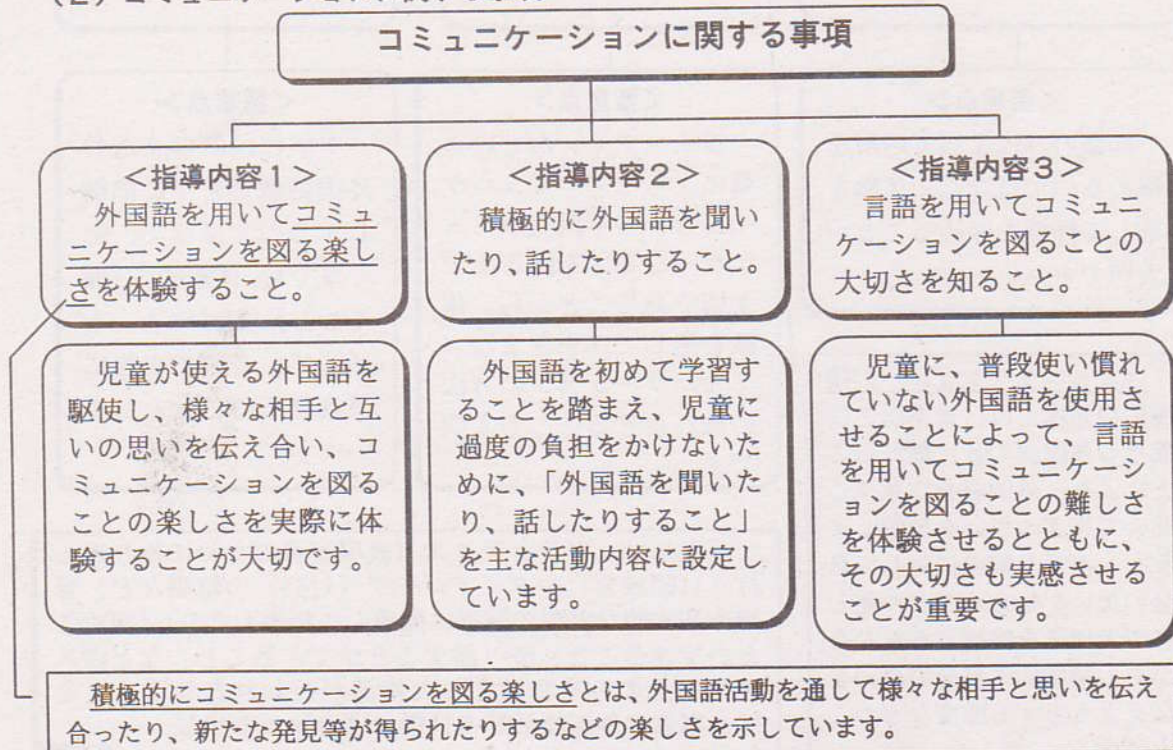
2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

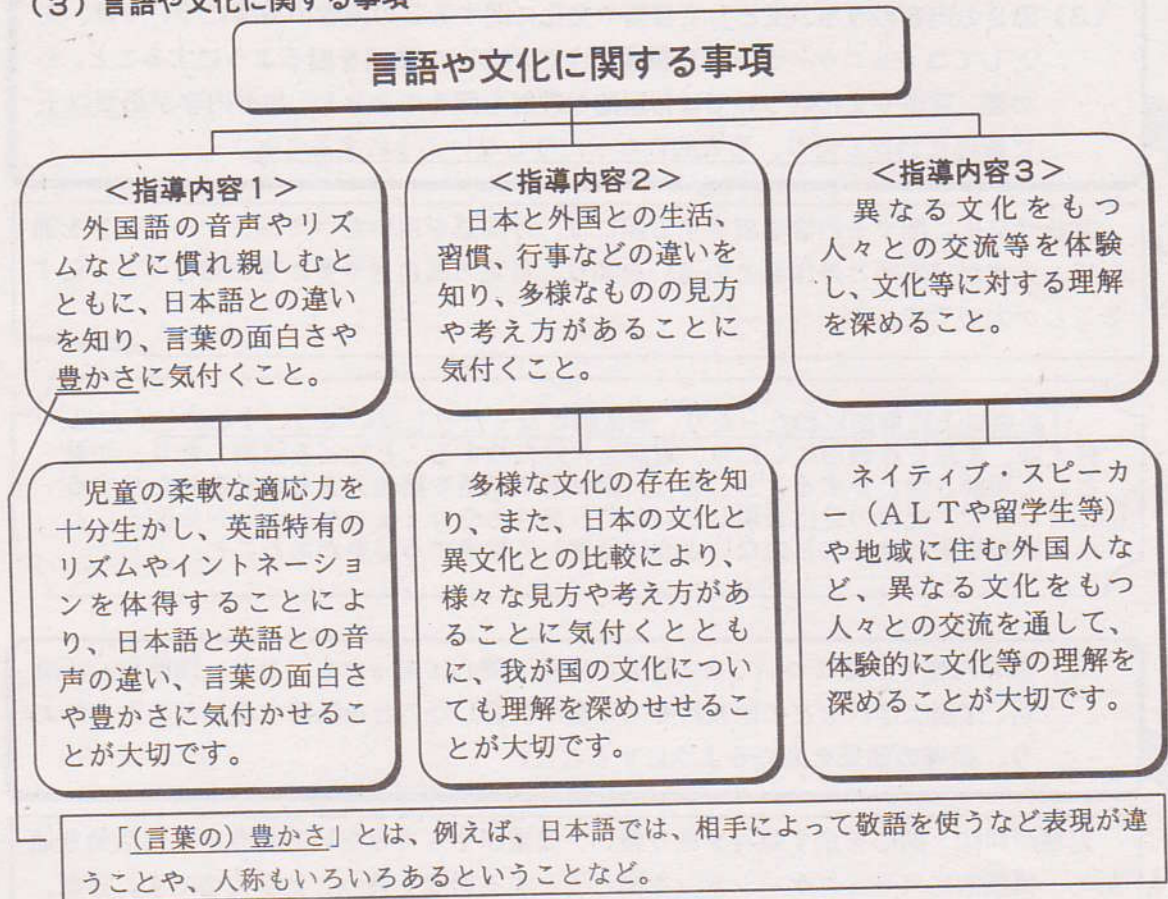
### (1) 内容の構成

- 学年ごとに内容を示すのではなく、2年間を通じて達成される内容を示しました。
- 目標は3項目から成り立っているが、内容は、「主としてコミュニケーションに関する事項」と「主として言語と文化に関する事項」とで構成しています。

### (2) コミュニケーションに関する事項



### (3) 言語や文化に関する事項



## 3 指導計画作成上の留意点

### (1) 英語を取り扱うことを原則とすること。

外国語のうち、特に「英語を取り扱うことを原則とする」とされているのは、現在の状況では、英語が世界で広くコミュニケーションの手段として用いられている実態や、中学校における外国語科は英語を履修することが原則とされていることなどを踏まえたものです。

「原則とする」とは、学校の創設の趣旨や地域の実情、児童の実態などによって、英語以外の外国語を取り扱うこともできるということです。

### (2) 各学校において、児童や地域の実態に応じて、学年ごとの目標に適切に定め、2学年間を通して外国語活動の目標の実現を図るようにすること。

指導計画の作成に当たっては、2学年間を通して外国語活動の目標の実現を図るため、各学校において学年ごとの目標を適切に定めることが必要です。

(3) 第2の内容のうち、主として言語や文化に関する2の内容の指導については、主としてコミュニケーションに関する1の内容との関連を図るようにすること。その際、言語や文化については体験的な理解を図ることとし、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにすること。

言語や文化に関する内容を指導する際には、外国語を用いたコミュニケーションを通して、児童が日本語と外国語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くようにすることが大切です。

「必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにすること」とは、例えば、単語を複数形にしたり、冠詞を付けたりすることなどを強調したり、知識として理解させたりすること、また、機械的に単語や語句、文を暗記させたりすることなどで、児童の自己表現したいという気持ちやコミュニケーションを図ることへの興味を失わせることのないように留意して指導する必要があること。

(4) 指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること。

児童が興味・関心を示す題材を取り扱い、児童がやってみたいと思うような活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことが大切です。また、広く言語教育として、国語教育をはじめとした学校におけるすべての教育活動と積極的に結び付けることが大切です。

(5) 指導計画の作成や授業の実施については、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行うこととし、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーの活用に努めるとともに、地域の実態に応じて、外国語に堪能(たん)な地域の人々の協力を得るなど、指導体制を充実すること。

※ネイティブ・スピーカー  
ある言葉を母国語とする人

指導計画の作成や授業の全体的なマネジメントについては、学級担任や外国語活動を専門に担当する教師が中心となって外国語活動を進めることが大切です。また、授業における外国語を用いた具体的な活動の場面では、ネイティブ・スピーカーや外国語が堪能な人々とのコミュニケーションを取り入れることで、児童の外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を一層高めます。

「学級担任」が外国語活動にかかわる必要性とは、児童が初めて出会う外国語への不安を取り除き、新しいものへの挑戦する気持ちや失敗を恐れぬ雰囲気を作り出すためには、指導者に豊かな児童理解と高まり合う学習集団づくりなどが求められることによるものです。

(6) 音声を取り扱う場合には、CD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用すること。その際、使用する視聴覚教材は、児童、学校及び地域の実態を考慮して適切なものとする。

外国語の音声やリズムに慣れ親しませる指導に際しては、CD、DVDなどの視聴覚教材の積極的な活用も極めて有効です。その際、それらを使う目的を明確にし、児童や学校及び地域の実態に応じたものを選択することが大切です。

(7) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、外国語活動の特質に応じて適切な指導をすること。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めることは、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めることにつながります。そのためにも、年間指導計画の作成などに際して、道德教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切です。

## 4 指導内容の取扱いと留意点

### (1) 2学年間を通して配慮すべき事項

ア 外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定すること。

外国語を初めて学習する段階であることを踏まえると、外来語など児童が聞いたことのある表現や身近な内容を活用し、高学年の児童の発達の段階や興味・関心にあった身近なコミュニケーションの場面で、外国語でのコミュニケーションを体験させることが大切です。

イ 外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること。

外国語活動の指導においては、音声によるコミュニケーションを重視し、聞くこと、話すことを中心とする豊かなコミュニケーションを体験させることが大切です。また、読むこと及び書くことについては、音声面を中心とした指導を補助する程度の扱いとするよう配慮し、聞くこと及び話すこととの関連をもたせた指導をする必要があります。

アルファベットについては、第3学年の国語において、ローマ字を学習する際に取り扱われることになっています。

ウ 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにすること。

外国語を初めて学習する段階における指導においては、ジェスチャーなどを活用して表現させるなど、コミュニケーションを図る楽しさを体験させることが大切です。また、ジェスチャーや表情を比較する中で、日本と外国との違いに気付かせ、多様なものの見方や考え方があることに気付かせるように配慮する必要があります。

エ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めることができるようにすること。

外国語活動を通して、さまざまな国の生活や文化と我が国の生活や文化との共通点や相違点に気付くようにするとともに、言語や文化に関心をもち、尊重できる態度を育成することが大切です。同時に、国語や我が国の文化について理解を深めることができるような指導を大切にする必要があります。

「国語や我が国の文化についても併せて理解を深める」とは、例えば、さまざまな言語での「あいさつ」「数の数え方」「遊び」「文字」などを扱うことで、日本のお辞儀の習慣やひらがな、カタカナ、漢字などの文字、じゃんけんなど、共通点や相違点に気付かせることです。

オ 外国語でのコミュニケーションを体験させるに当たり、主として次に示すようなコミュニケーションの場面やコミュニケーションの働きを取り上げるようにすること。

日常の授業において、コミュニケーションの場面の設定や、コミュニケーションの働きを意識した指導を行うことが大切です。

#### [コミュニケーションの場面の例]

##### (ア) 特有の表現がよく使われる場面

###### ① あいさつ

例1 A: Hello. How are you? B: I'm fine, thank you.

例2 A: Nice to meet you. B: Nice to meet you, too.

###### ② 自己紹介

例 Hi, my name is Taro. I like sushi. I don't like soccer.

###### ③ 買い物

例1 A: Do you have blue shoes? B: Yes, I do. / No, I don't.

例2 A: What do you want? B: Banana, please.

###### ④ 食事

例 A: What would you like? B: Milk, please.

###### ⑤ 道案内

例 A: Where is the post office? B: Go straight. Turn left / right. など。



(イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面

①家庭での生活

例 A: What time do you get up? B: I get up at 6:00.

②学校での学習や活動

例 On Monday, I study Japanese, math and science.

③地域の行事

例 Let's clean the beach.

④子どもの遊び

例1 Rock, scissors, paper. One, two, three.

例2 I can play kendama. など。

[コミュニケーションの働きの例]

(ア) 相手との関係を円滑にする

①礼を言う

例 Thank you.

②褒める

例 That's right. Good.

③丁寧表現

例 A: What would you like? B: I'd like pizza, please. など。

(イ) 気持ちを伝える

例 A: How are you? B: I'm fine / happy. など。

(ウ) 事実を伝える

例 A: What's this? B: It's a rabbit. など。

(エ) 考えや意図を伝える

例1 I like baseball.

例2 I want to be a baseball player. など。

(オ) 相手の行動を促す

例 Go straight. Turn right. など。

## (2) 各学年における配慮事項

### ○第5学年における活動

外国語を初めて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達とのかかわりを大切にした体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。

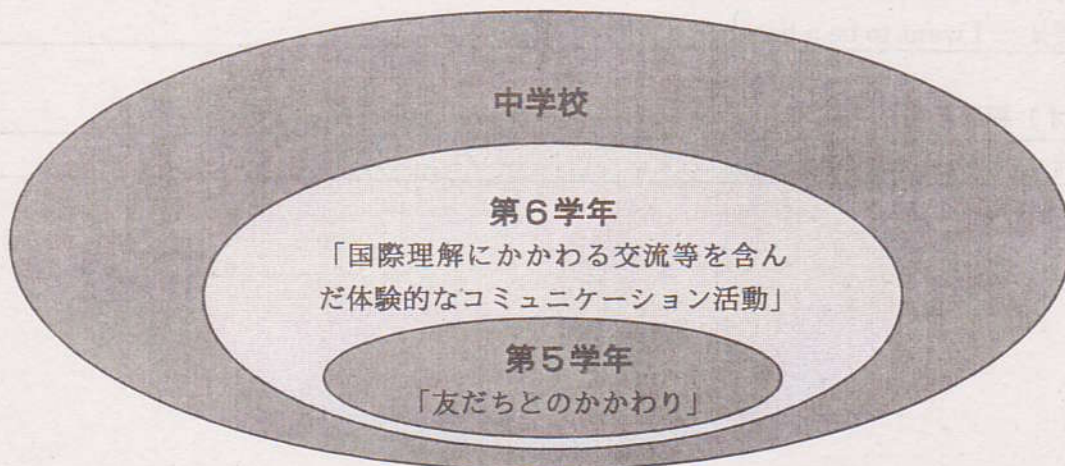
第5学年では、友達や家族、地域、社会とのつながりに焦点を当てた活動を行います。例えば、「あいさつ」、「自己紹介」、「買物」、「学校生活」、「遊び」、「日常生活」、「食事」など自分や身近な話題に関してのやり取りを通して、友達とのかかわりを深めていくことをねらっています。

「友達とのかかわり」について・・・普段、友達に対してあまり問わない内容でも、外国語活動において、友達とやり取りをすることを通して、友達や自分のよさをよりよく再認識することで、他者理解や自尊感情などを高めていくことにつながります。

### ○第6学年における活動

第5学年の学習を基礎として、友達とのかかわりを大切にしながら、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。

第6学年では、第5学年での経験をもとに、友達とのかかわりを大切にしながら、世界へのつながりや広がりに関する活動へ発展させていくことをねらいとしている。外国語を用いた交流活動などの体験的なコミュニケーションを通して深めていくことで、外国人とのコミュニケーションを図る楽しさを体得することができるとともに、中学校外国語科に向けてのコミュニケーション能力の素地をつくることができます。



## 5 小学校外国語活動Q & A

Q アルファベットの指導で留意することは何ですか

A アルファベットなどの文字の指導については、例えば、アルファベットの活字体の大文字及び小文字に触れる段階にとどめるなど、中学校外国語科の指導とも連携させ、児童に対して過度の負担を強いることなく指導する必要があります。

Q 発音と綴りとの関係の指導を行う必要がありますか

A 発音と綴りとの関係（いわゆるフォニックス）については、中学校学習指導要領により中学校段階で取り扱うものとされていることから、小学校段階では取り扱う必要はありません。

Q 第1学年及び第2学年において、学校裁量の時間に外国語活動を行うことは可能ですか

A 学校裁量の時間に外国語活動に準じた内容を行うことは可能です。しかし、子どもの負担になることは避ける必要があります。実施する時数や指導計画等について、十分検討することが大切です。

Q 第3学年及び第4学年において、総合的な学習の時間に外国語活動を行う場合、留意することは何ですか

A 総合的な学習の時間の目標には、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと」が明確に示されています。また、内容の取扱いにかかわる配慮事項として「国際理解に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりすることなどの学習活動が行われるようにすること」とされています。

このことから、これらに照らして適切な活動であれば、国際理解に関する学習の一貫として外国語を用いることは問題ありません。しかし、英会話等に関するスキル習得のみを目的とした学習活動は、適当とは言えません。

Q 外国語活動と道徳の時間との関連を図った指導はどのように工夫すればいいですか

A 外国語活動で扱った内容や教材の中で適切なものを道徳の時間に活用することが効果的な場合があります。また、道徳の時間で取り上げたことに関係ある内容や教材を外国語活動で扱う場合には、道徳に時間における指導の成果を生かすように工夫することも考えられます。

Q 外国語活動における評価について、留意することは何ですか

A 評価を行うに当たっては、表現の定着やいわゆるスキルのみの評価にならないように注意する必要があります。

したがって、評価規準は、「～できる」はふさわしくなく、「～しようとする」などの示し方が適切です。

具体的な評価方法としては、相互評価などがあります。児童が発表の仕方や目標を自ら設定して、教師、児童同士が評価することも可能です。

## 6 年間指導計画の立案と考え方

### (1) 年間指導計画の構成要素

- ① 1年間で児童に付けさせたい力（目標）
- ② 具体的な指導内容
- ③ 主な活動
- ④ 評価の観点とその評価方法

※ 年間の指導計画を立てる際には、上記の構成要素を支えるものとして、教師が小学校における外国語活動のねらいや趣旨を十分理解していなければなりません。

### (2) 様々な年間指導計画とその立案

小学校における外国語活動は、指導者が児童の発達段階、興味・関心等の実態を把握し、外国語活動の実施授業時間数や、学習開始年齢等の学習条件を考慮して、年間指導計画を立て、計画的に、系統的にコミュニケーションを体験させる必要があります。また、年間指導計画が完成したとしても、児童の発達段階や興味・関心の変化に応じて、常に指導計画を見直し、修正を加えていく必要があります。その際、その都度、確かな計画を作成することが重要です。

## 7 単元・授業の構成方法

### (1) 単元構成の基本

1単元が終わったときに、児童がその単元で扱った内容が身につけている様子を見ると、教師として大変うれしいものです。教師は、そのために細かな段階を踏んで、児童に負担がないように単元を構成することが必要です。その際、次の点に留意が必要です。

#### ① 児童の興味・関心とコミュニケーション能力の素地をすり合わせる

単元で扱われる内容は、児童が興味・関心をもっていること、してみたいことを考えて設定します。しかし、児童の好きな活動ばかり設定し外国語活動の目標を無視することはできません。児童の興味・関心があるものをいかに活動に織り込むかが大切です。まずは、十分に外国語を聞き、活動等を通して体験し、自分の言いたいことを言葉を選んで発話するという過程を、1単元の中で組んでいく必要があります。

#### ② 児童の発見や思考を生かす

楽しさだけの活動では、やがて児童は飽きてくるものです。授業には、児童の発見や思考、そして感動がなければならず、それらを表現する場もなければなりません。高学年は、知的好奇心も高まり、なぜこのようなことをするのかと理由を求めるようになります。何のためにするのか、また、どんな力が付くのか（付いたのか）を実感できるような活動を設定することが大切です。

### ③ 様々な種類の活動をバランスよく配列する

主な活動の種類と活動形態を次に挙げます。これらが偏らないように、バランスよく単元の中に組み込むことが大切です。

#### <主な活動の種類>

・歌    ・クイズ    ・スキット (寸劇: P 14 参照)    ・チャンツ (P 19 参照)  
・絵本の読み聞かせ    ・スピーチ    ・ゲーム  
・ロールプレイ (P 14 参照)    ・作品作り    等

#### <主な活動形態>

・全体活動    ・グループ活動    ・ペア活動    ・個別活動    等

## (2) 単元構成の方法

### ① 目標を決める

児童に身に付けたいことを明確にする。

### ② 活動の種類を決める

活動は目標にあったものとし、例えば、聞く活動から口まねをする活動、記憶したり自分のものにしたりする活動、自分の意思で選んで発話する活動へと、単元全体の中で流れるように設定する。

### ③ 活動形態を決める

どのようなコミュニケーション活動を取り入れると目標に沿うかを考える。

### ④ 具体的な表現を決める

コミュニケーション活動で使用する表現を考える。児童にとって難しいと思われるものは避ける。

## (3) 授業構成上の留意点

### ① コミュニケーション能力の素地を培う

1時間の授業の中でも、スキル向上のためのパターン・プラクティスやダイアログの暗記を中心とせず、コミュニケーション活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ったり、言語や文化について、体験的に理解を深めたりする活動を行う。

#### ※ パターン・プラクティス

文型を覚えるための、定型文を用いた繰り返し練習。  
例: I like dogs. dogs を cats など他の単語に変え、  
繰り返し声に出して練習することにより I like~  
の文型を覚えます。

### ② 活動の流れに注意する

例えば、ゲームが面白いからといって、同じゲームを長時間続けたりすると、児童も飽きて活動意欲は低下します。先に挙げたような様々な活動を、様々な形態でバランスよく行うことが大切です。

### ③ 多様な機器類を積極的に活用する

CD、DVD、コンピュータなど様々な機器類を使用することで、児童の興味・関心を喚起することができます。

### ④ 児童と教師とが一对一でやり取りする場面を取り入れる

児童にとって未知の外国語を理解するためには、児童が、相手の言葉が分かった、自分の思いが伝わったという経験をし、自信をもつことが大切です。そこで、あいさつなど、簡単なやり取りでもよいので、児童一人一人と教師がやり取りする場面を取り入れるよう心がけることが大切です。

### ⑤ 余韻を残す

1時間の授業の中で、例えば2～4種類の活動を行うとすれば、どの活動も児童がもう少しやりたい、続けたいと言う余韻をもった状態で終わらせるとよいです。1つの活動で得た意欲を、次の活動へとつないでいくためです。

## (4) 授業の基本的な流れ

外国語活動の授業の基本的な流れは次のとおりです。

### ① ウォーム・アップ

英語であいさつをし、児童にこれから外国語活動が始まることを意識させます。歌やチャンツをみんなで رفتり、2～3分で終わる簡単なゲーム活動などをして、緊張をほぐすとよいでしょう。

### ② 導入と展開

ゲームやクイズ、絵本の読み聞かせなどで、取り上げる内容や表現を導入します。その際には、教師がジェスチャーを使ったり、具体的なものを示したりして、児童の理解を助けてあげることが大切です。また、既習語彙・表現を活用し、常に活動の中に、身に付けさせたい内容をスパイラルに取り込むことも大切です。

さらに、本時の表現を扱った歌やチャンツで、その表現を繰り返し聞かせたり、口に出させたりして慣れさせるのもよいです。1時間の授業の中でも、できれば聞く活動から、口まねをする活動、記憶し自分のものにする活動、自分の意思で選んで発話する活動へと段階的に構成するとよいでしょう。

### ③ まとめ

本時の授業の中で、何がよかったのか、態度面や表現面について、教師側から児童に声かけをします。また、児童から本時の振り返りとして、どこがどうよかったのかなどを具体的に発表させたり、書かせたりするとよいです。そして、次の外国語活動を楽しみにできるように、余韻を残して終わらせることが大切です。

## 8 ゲームの効果的な活用

小学校における外国語活動の代表的な活動の1つにゲームがあります。ゲームは児童の学習意欲を高めるだけでなく、発音、語彙、表現等に慣れ親しむための練習の場も提供してくれます。ただし、そのねらいに適切なものが選択されていない場合、単なる競争に終始してしまうだけになるので、注意が必要です。ゲームを扱うときの留意点は次のとおりです。

### (1) ゲームの目的を明確に

ゲームにも、コミュニケーション活動としての一面が求められます。例えば、外国語を聞く活動なのか、話す活動なのか、または両方なのか、ドリル活動なのか、自由会話なのかなど、具体的な活動目標を明確にする必要があります。これが明確でないと、児童は意図された目標に向かわず、単にゲームを素早く簡単に行う傾向があります。

### (2) ゲームに必要な表現の吟味

ゲームに必要な表現は、学習対象である表現や内容と一致させておく必要があります。児童はゲームの中で、それらを自然に練習します。そのため、ゲームのための表現ではなく、授業の目的・ねらいに沿った、実生活に即した場面や表現が選択されていることが大切です。

### (3) やり取りの大切さ

ゲームの中でインタビュー活動などが多用されるが、競争的意識が強くなると、コミュニケーションの体験がおろそかになってしまいます。ゲームを行うときは急がず、必要な文脈では"Excuse me."や"Thank you."等の表現を使わせることを心がけたいものです。

### (4) ゲームのデータベースの作成

目的・領域等、次のような項目に応じて、利用可能なゲームのデータベースを校内に作っておくと便利です。

- ①目的：積極的なコミュニケーションの態度の育成なのか、言語や文化についての体験的な理解なのか、外国語の音声や基本的な表現に慣れるためなのか。
- ②形態：個人・ペア・グループ・全体か、競争的活動か、協力的活動か、児童を落ち着かせるものか、活動的で気分を盛り上げるものか。
- ③内容：他教科と関連するトピックか、児童の生活に関連するトピックか、使用する表現及び語彙はどれか。
- ④対象：どの学年か、児童の実態に合っているか。
- ⑤必要な設備：どのような教具、教室の準備が必要か。

### (5) 具体的なゲームや活動例

それぞれのゲームは、教師が児童の実態に合わせて改変することで、より意味のある活動になります。

#### ①聞くことを中心としたゲーム

##### ア フルーツバスケット

「果物カード」を首から掲げ、自分のカードに描かれた果物が言われたら立ち上がって移動する椅子取りゲーム。学習した表現（色、形、動物、身の回りのもの等）でも同様の活動ができます。

イ 指差しゲーム

“Touch something red.”等の教師の指示に従って、指示されたものを触るゲーム。

ウ スリー・ヒント・クイズ

教師が出すヒントをもとに、それが何かを当てるゲーム。

(例) I am black and white. I am from China. I like bamboo leaves. →panda

エ Simon Says (サイモン セズ)

教師が児童にある動作をするよう指示します。動詞の前に Simon Says.をつけて指示した場合のみ児童は言われたとおりに動きます。動詞の前に何もつけないときは、言われた動作をしてはいけません。Simon Says.を Please に変えて行うこともできます。

②対話を中心としたゲーム

ア 伝言ゲーム

聞いた内容を列ごとに伝えていくゲーム。会話形式”Do you like dogs?—Yes, I do./No, I don’t.” ”What sport do you like?—I like～.”や”Touch your head”という指示を列の一番後ろの児童まで伝えて、最後の児童が回答したり、行動で反応したりする。

イ インタビュー・ビンゴ

学習した内容を利用し、ビンゴゲームにインタビューを加えた活動。インタビューをした相手の情報をワークシートに記録していく。例えば、”Do you like soccer?”という表現を利用して友だちにインタビューをします。縦横斜めなど一直線 Yes の答を得られたらビンゴになります。

このゲームの場合、ゲーム終了後のワークシートに○だけが残るのではなく、”Yes./No.”と答えた友だちの名前をマス目に残しておくことで、他者理解へとつながります。

ウ おおかみさん、今何時? (What time is it?)

「達磨さんが転んだ」に似たゲームです。オニ(おおかみ)と他の児童は、教室の前と後ろに分かれて立ちます。オニは他の児童に背を向けて立ちます。全員で”What time is it?”とたずねるとオニは”(It’s) two o’clock.”というように答え、児童は言われた歩数だけオニに向かって進みます。”What time is it?”の質問にオニが”Dinner time.”と答えたところで全員一斉に逃げ、オニにつかまった児童が次のオニになります。

③その他

ア ロールプレイ

お店屋さん、レストラン、病院、電話でのやり取りなど、ある場面での英語使用にねらいを置いた対話活動です。

イ 劇・スキット

物語や日常のやり取りを劇化して表現します。全部を英語にすることが難しい場合は、日本語が混じってもかまいません。



## 9 評価について

評価に当たっては、外国語活動の目標における以下の3つの柱を基にして様々な手法を利用しながら統合的に行うことが求められます。

- ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める
- ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る
- ③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる

特に、第5学年では、児童の日常生活や学校生活を中心に、友だちとのかかわりを大切にしたい活動等を重点的に評価し、第6学年では、第5学年で培った友だちとのかかわりを大切にしながら、国際理解にかかわる活動の評価をしたい。その際、表現の定着やいわゆるスキルの評価にならないように注意する必要があります。

評価は、数値による評価は行わないものとし、児童の状況等が把握できるような文書表記がよいです。

具体的な評価方法としては、教師による行動観察・発表観察、「英語ノート」の点検、児童による自己評価・相互評価等があります。児童の発表の仕方や目標を自ら設定して、教師、児童同士が評価することも可能です。特に表現の定着までを図る必要はありませんが、活動を通してみとりを重視したいものです。授業がチームティーチングで行われる場合には、ネイティブ・スピーカー等の意見も参考にするとよいです。

### <柱に基づいた「英語ノート」における評価例>

#### ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める

- ・世界には様々な数の数え方があることを知ろうとする（5年L3：行動観察）
- ・ALTの母国や中国、オーストラリアなどの国々の小学校では、どのような教科が学習されているのかに興味をもって聞こうとする（5年L8：行動観察）
- ・アルファベットの文字の形に興味をもち、理解しようとする（6年L1：行動観察）

#### ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る

- ・作成したオリジナル時間割を積極的に伝えようとする（6年L8：発表観察）
- ・将来つきたい職業について、積極的に相手にたずねたり答えたりする（6年L9：行動観察）
- ・プレゼンテーションの楽しさを感じ、多様な表現方法を習得しようとしている（5年L8：発表観察）

#### ③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる

- ・1から10までの数字を言いながら進んで歌おうとしている（5年L3：行動観察）
- ・日本語になった外来語とそのもとの英語の音声の違いに気付き、英語で意識して発音しようとする（5年L6：行動観察）
- ・世界の時刻を聞いて、今何時かを理解する（6年L7：行動観察）

※図中Lは、P16・P17の単元(Lesson)を示す。

# 10 年間指導計画

## (1) 外国語活動年間指導計画 (例) 第5学年 (35時間)

単元 (Lesson)	タイトル	指導内容			
		第1時	第2時	第3時	第4時
1	世界の「こんにちは」を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な挨拶があることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶のマナーを知り、積極的に挨拶し、自分の名前を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと挨拶をし、作成した名刺を交換する。</li> </ul>	
	使用表現等	What's your name?/My name is Ken./Nice to meet you. 等			
2	ジェスチャーをしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な感情や様子を表す語を知り、そのジェスチャーをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーの大切さを知り、ジェスチャーを交えて思いを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーを交えて、進んで相手に挨拶する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情や様子を、ジェスチャーを交えて表現し、伝える。</li> </ul>
	使用表現等	How are you?/I'm happy. 等			
3	数で遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々なジェスチャーがあることを知るとともに、1から10までの数を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々なジェスチャーがあることを理解し、1から20までの数字を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幾つか尋ねたり、1から20までの数で答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数を扱ったゲームを友だちと行う。</li> </ul>
	使用表現等	How many?/Five. 等			
4	自己紹介をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>好き嫌いについて聞き取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好き嫌いを相手に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちに好き嫌いを尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好きなものを含めて、自己紹介する。</li> </ul>
	使用表現等	Do you like apples?/Yes, I do./No, I don't. I like bananas./Thank you. 等			
5	いろいろな国の衣装を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な衣服があることを知るとともに、衣服の言い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見をはっきり言うことの大げさに気付くとともに、衣服を買う時の表現を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好みをはっきり言ったり、相手が気持ちよく買い物できるように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手に自分が買ったものが正しく伝わるように発表する。</li> </ul>
	使用表現等	I don't like blue. 等			
6	外来語を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来語とその由来の語との発音の違いに気付き、注意して発音する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手から尋ねられた際、自分の欲しいものを相手に頼む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欲しいものを尋ねたり要求したりして、友だちのフルーツ・パフェを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作ったフルーツ・パフェを紹介する。</li> </ul>
	使用表現等	What do you want?/Melon, please. 等			
7	クイズ大会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語と日本語の違いを通して、漢字の成り立ちの面白さに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“What's this?”の質問に対して、何について尋ねられているか理解し、答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“What's this?”を使って尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと互いに尋ねたり答えたりして、クイズ大会を楽しむ。</li> </ul>
	使用表現等	What's this?/It's a pencil. 等			
8	時間割を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国の小学校では、どのようなものが学習されているか知るとともに、教科の言い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科名や曜日を扱ったゲームを積極的にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成した自分のオリジナル曜日時間割を友だちに伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで作成した時間割を発表する。</li> </ul>
	使用表現等	I study Japanese. 等			
9	ランチ・メニューを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本と外国とでは、朝食時に食べるものが異なっていることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物や料理を表す語を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な表現で尋ねたり、自分の欲しいものを伝えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで作成したスペシャル・ランチを紹介する。</li> </ul>
	使用表現等	What would you like?/I'd like juice. 等			

(2) 外国語活動年間指導計画(例) 第6学年(35時間)

単元 (Lesson)	タイトル	指導内容			
		第1時	第2時	第3時	第4時
1	アルファベットで遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットの大字の読み方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットの文字の読み方を聞いて、大文字を認識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らアルファベットの文字を読み、大文字とその読み方とを一致させる。</li> </ul>	
	使用表現等	What's this?/It's ~./A ~ Z 等			
2	いろいろな文字があることを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の様々な文字に興味を持ち、アルファベットには小文字もあることを知るとともに、21以上の数字を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットの小文字に興味を持ち、小文字を認識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らアルファベットの文字を読み、小文字とその読み方とを一致させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるアルファベット表示に興味を持ち、アルファベットの大文字と小文字とを書き写す。</li> </ul>
	使用表現等	What's this?/a ~ z 等			
3	カレンダーを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の行事や特徴を確認し、行事の行われる月の言い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の誕生日を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誕生日について、まとまった話を聞いて、その概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友だちの誕生日について尋ねたり、答えたりする。</li> </ul>
	使用表現等	When is your birthday?/My birthday is March 3rd. 等			
4	できることを紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を積極的に聞き、何ができ、何ができないかを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問に答えて、自分のできることと、できないことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとどのようなことができるのかを、尋ねたり答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のできることを発表したり、友だちの発表を理解したりする。</li> </ul>
	使用表現等	Can you swim?/Yes, I can./No, I can't. I can swim./I can't swim. 等			
5	道案内をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>町中にある様々な建物の言い方に興味を持ち、理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向や動きを指示する表現を聞いて、理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向や動きを指示する表現を使って、相手に目的の場所を教える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に道案内をしたり、案内に従って目的地に行ったりする。</li> </ul>
	使用表現等	Where is the flower shop?/Go straight. Turn right/left./Stop. 等			
6	行ってみたい国を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な英語があることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行きたい国とその理由について聞き、概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行きたい国を尋ねたり答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行きたい国を理由とともに言ったり、相手の行きたい国と理由とを理解したりする。</li> </ul>
	使用表現等	I want to go to Italy./Let's go. 等			
7	自分の一日を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には時差があることを知るとともに、時間についての表現を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の一日の生活について話を聞き、その概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活に関する表(生活表)を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成した生活表をもとに、自分の一日を紹介する。</li> </ul>
	使用表現等	What time do you get up?/At 7:00./I go to bed. 等			
8	オリジナルの劇をつくらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には様々な民話や物語があることを知り、それらに興味を持って聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大きなかぶ」の面白さ知り、グループで登場人物を変え、オリジナル「大きなかぶ」をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでオリジナルの物語を創作し、劇の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナル物語を発表したり、他のグループの発表を聞いて理解したりする。</li> </ul>
	使用表現等	Please help me./What's the matter? 等			
9	将来の夢を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職業の言い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来つきたい職業について話されていることを聞いて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来つきたい職業について、尋ねたり答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチ・メモをもとに、理由を含め自分の夢を紹介する。</li> </ul>
	使用表現等	What do you want to be?/I want to be a teacher. 等			

# 11 指導の展開例

## Lesson1 第三時「名刺交換をしよう」〈5年生〉

目 標: 友だちと挨拶をし、作成した名刺を交換する。

使う表現: What's your name? (あなたの名前は何か。)

My name is Ken. (私の名前はケンです。)

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	・指導上の留意点	教材
				○評価の観点(方法)	
				△国際理解の視点	
挨拶 5	・挨拶をする。 Hello. Thank you. (I'm) good/hungry.	・全体に挨拶をする。 Hello, everyone. How are you? Are you good/hungry/sleepy?		・一人ずつ名前を呼んで挨拶することにより、児童全員が指導者と1対1で英語で挨拶する機会をもてるようにする。	
展開 10	【Let's Chant】 ・CDに合わせてHello Chantをする。 ・指名された児童は、My name is～.の名前の部分に名前を入れてチャンツをする。	1 児童を2つのグループに分け、グループ同士が尋ね合う形でチャンツ(注1)をする。名前の部分は、それぞれの名前を入れてチャンツするよう指示する。 S1: Hello. Hello. My name is～. S2: Hi, Hi. My name is～. Nice to meet you. S1: Nice to meet you, too. (Sは児童を示す) 2 指導者は各グループから児童を指名し対話させる。 3 ボールを児童に手渡し、次々に手渡し対話していく。		・全体でチャンツをし、児童が自分の名前を入れてチャンツをする。 ・児童がボールを次々続けて渡すよう工夫する。	CD ボール
展開 5	【Let's Listen】 ・CDを聞いて、テキストの四角に番号を入れる。	・英語ノートP8【Let's Listen】の絵の4人が挨拶しあっている状況を説明する。 ・CDを聞かせる。	・CDを聞いて、英語ノートのどの子どもの挨拶かを聞き取って、英語ノート空欄に番号を入れるよう指示する。	△英語ノートの絵で示されているように、名前を伝え合う際には、互いに目を見ながら自己紹介することが大切であることを理解させる。	英語ノート CD
	【Activity2】 ・名刺交換の方法を知る。	・名刺交換の仕方をデモンストレーションして説明する。 A: Hello. B: Hi. A: My name is Tom. What's your name? B: My name is Mai. (二人名刺交換する。) A/B: Thank you. See you. ・児童2～3名と名刺交換する。 ※名刺を交換するとき、"Here you are."と言わせるかどうかは児童の実態による。ただし、"Here you are." "Thank you."などのやり取りは、普段の授業中で繰り返し使えるようにするとよい。		・デモンストレーションで、互いにしっかり相手の目を見ながら行う。 ・指導者は代表の児童と名刺交換を行う際、自信をもたせるよう配慮する。 ・学級担任は、アイコンタクトや声の大きさなど、ALTは発音などについて褒める。	英語ノート
展開 20	・自己紹介して、名刺の交換をする。 Hello. My name is～. Thank you. See you. ・名刺の数を数えて、発表する。 「3枚」Three.	・児童にやってみよう告げる。 Everyone, stand up. Ready go.  ・もらった名刺の数を大きに数える。 Five. I have five.	Now it's your turn. Say "Hello." Then you say your name. After you change cards, say "Thank you." If you're finished, go back to your seat. ・何枚名刺をもらったか尋ねる。 How many card did you get? Sensei has five.	・名刺交換に指導者も加わり、名前や挨拶が言いづらそうな児童と名刺交換する。その際、児童と一緒に言うなど、自信をもたせるよう配慮する。 ○自分から進んで相手と挨拶をし、名刺を交換する。〈観察〉	前時に作成した名刺

	・もらった名刺を英語ノートP9に貼り、名刺の数を□に記入する。	・ALTの指示に従って、もらった名刺を英語ノートに貼って見せる。 Look. OK? I have ~'s card. ・数名の児童を指名し、名刺についてコメントをする。	・もらった名刺を英語ノートに貼って見せ、児童にも貼るよう告げる。	・児童が名刺を貼っている間、指導者は児童に“How many cards do you have?”などと尋ねて回り、1対1でコミュニケーションを図る機会をもつ。 △名刺交換を通して、人と人とが知り合い、親しくなっていく喜びを実感させる。
挨拶 5	・振り返りをする。	・児童の英語を使おうとする態度面についてよかったところを言う。	・児童の英語についてよかったところについて言う。	・次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかった点を評価する。
	・挨拶をする。 See you. Good-bye.	・挨拶をする。 See you. Good-bye.		

チャンツ(注1):リズムに乗って英語を話す活動。英語特有の音とリズムに親しむのに有効です。チャンツ仕立てにすることによって、比較的長い表現もいつの間にか楽しく習得できます。リズムボックスなどを利用して正しいストレスとリズムで行うとよいでしょう。短い英語表現を会話形式にして繰り返して用いるとよいです。

<チャンツ例>

・7 o'clock, 7 o'clock/ Get up, get up/ 7 o'clock, 7 o'clock/ Get up quickly!

### Lesson6 第3時「フルーツ・パフェを作ろう」 <5年生>

目 標: 欲しいものを尋ねたり、要求したりして、友だちのフルーツ・パフェを作る。

使う表現: What do you want? (何がほしいですか。)

Strawberries, please. (いちごをお願いします。)

Here you are. (はい、どうぞ。)

Thank you. (ありがとう。)

You're welcome. (どういたしまして。)

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	指導上の留意点	教材
				○評価の観点(方法) △国際理解の視点	
挨拶 5	・挨拶をする。 Hello, I'm fine/happy/hungry/sleepy.	・全体に挨拶をする。指導者二人で児童を分担して一人一人の児童と挨拶をする。 Hello, how are you? Are you fine/happy/hungry/sleepy?		・一人一人と挨拶することにより、指導者と1対1で英語でやり取りする機会をもてるようにする。	
復習 10	【Let's Chant】 ・チャンツをする。	・食べ物絵カードを見せながら一緒にチャンツをする。		・絵カードを見せながら、テンポよくチャンツをすることにより、児童を飽きさせないようにする。	食べ物絵カード
展開 15	【Activity1】 ・オリジナル・フルーツ・パフェの作り方を知る。 ・オリジナル・フルーツ・パフェを作る。  ・ペアで、互いのパフェを紹介し合う。	・オリジナル・フルーツ・パフェを作ることと告げ、やり方をデモンストレーションで示す。 ①巻末絵カードを切り取り、それから好きなものを選んで、パフェの入れ物にのせる。 ②ペアに、自分の作ったフルーツパフェを紹介する。 ・学級担任(HRT)とALTとは、それぞれパフェの入れ物絵カード(拡大版)を黒板に貼り、果物絵カードから好きなものを選んで入れ物に貼る。張り終わったら、互いに自分のパフェを紹介する。 A: This is my parfait. I like apples, pineapples and strawberries. H: This is my parfait.		・次の活動につなげるためにパフェを自分で作らせる。自分のパフェを紹介する活動を通して、既習事項を思い出させる。 ・指導者は、実際にパフェの入れ物絵カード(拡大版)を黒板に貼り、やり方を示すことにより、児童にやり方を十分理解させるようにする。	英語ノート 果物絵カード パフェの入れ物絵カード 巻末絵カード

展開 10	<p>【Activity2】</p> <p>・ペアで、店員と客に分かれ、フルーツパフェを作る。</p> <p>客：Hello.</p> <p>店員：Hello, what do you want?</p> <p>客：Strawberries, please.</p> <p>店員：How many?</p> <p>客：Three, please.</p> <p>店員：Here you are.</p> <p>客：Thank you.</p>	<p>・ペアになり、互いにフルーツパフェを作り合うように言う。</p> <p>①ペアになり、英語ノートと、巻末絵カードとを交換する。</p> <p>②ペアでそれぞれが、店員と客になる。</p> <p>③店員は、客に“What do you want?”と尋ね、客は自分の欲しい果物を“～, please.”で答える。</p> <p>④店員は、要求された巻末絵カードを相手の英語ノートのパフェの入れ物の絵の上に置く。出来上がったら客に渡す。</p> <p>&lt;デモンストレーションの例&gt;</p> <p>客：Hello.</p> <p>店員：Hello. What do you want?</p> <p>客：Peach, pineapple and melon, please.</p> <p>店員：Here you are.</p> <p>(相手の英語ノートの上に、相手の果物カードを置いて、差し出す。)</p> <p>客：Thank you.</p> <p>店員：You're welcome.</p>	<p>・指導者は、ペアのやり取りを聞き、うまく行かない児童に付き一緒に発音したりする。</p> <p>・“Here you are./ You're welcome.”はここで初めて発話になるが、これらの表現は、人と人との関係を豊かにするものであることから、これまでも様々な場面で意識して活用することも大切です。</p> <p>○欲しいものを尋ねたり、答えたりして自分のフルーツ・パフェを作る。&lt;観察&gt;</p> <p>・英語での対話の楽しさを実感させる。</p>	英語ノート 巻末絵カード
	挨拶 5	<p>・振り返りをする。</p> <p>・挨拶をする。 See you. Good-bye.</p>	<p>・児童の英語を使おうとする態度面についてよかったところを言う。</p> <p>・挨拶をする。 See you. Good-bye.</p>	<p>・児童の英語についてのよかったところを言う。</p> <p>・挨拶をする。 See you. Good-bye.</p>

Lesson1 第2時 「聞こえたアルファベットはどれかな」 <6年生>

目 標：アルファベットに興味をもち、アルファベットの読み方を聞いて、アルファベットの大文字を認識する。  
使用する表現：A～Zのアルファベットの文字、1～20の数字

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	・指導上の留意点	教材	
				○評価の観点(方法)		
				△国際理解の視点		
挨拶 2	<p>・挨拶をする。 Hello, I'm good/fine/OK/hungry/sleepy.</p>	<p>・全体に挨拶をする。 Hello, how are you?.</p> <p>Are you good/fine/OK/hungry/sleepy?</p>		<p>・英語で元気よく挨拶を交わすことにより、授業に始まりを意識させる。</p>		
復習 5	<p>【Let's Sing】</p> <p>・アルファベット・カードを見ながら一緒に歌う。</p>	<p>・大文字アルファベット・カードを黒板に貼る。歌いながらアルファベット・カードを指さす。</p>		<p>・歌に合わせてカードを指し示すことにより、児童に音と文字を一致させる。</p> <p>・慣れてきたら、歌う速さを変えたり、児童に自分の名前の頭文字のところで手を叩かせたり、立たせたりして、飽きずに何度も歌えるようにする。</p>	CD 大文字アルファベット・カード	
復習 10	<p>【Let's Play1】</p> <p>・グループで巻末大文字アルファベット・カードを使ってカルタ取りをする。</p>	<p>①グループで巻末大文字アルファベット・カード1セット(A～Zまで)を用意する。</p> <p>②グループで机の上にカードを並べ、机の周りに座る。</p> <p>③指導者が言うアルファベットを聞いて、そのカードを取る。早く取った人がそのカードをもらえる。取ったカードの数を競う。</p> <p>④最後に、取った枚数を全員で確認する。</p>		<p>・児童の実態に応じて、グループ内での対抗にしてもよいし、グループ対抗にしてもよい。</p>	巻末大文字アルファベット・カード	

展開 15	【Let's Play1】 CDを聞いて、聞こえたアルファベットの文字や数字を順に線で結ぶ。	・英語ノートの「線つなぎ」をすることを告げる。 ・CD、あるいは指導者が言うアルファベットの文字の読み方を聞いて、それらを順に線で結ぶように言う。 ・指導者は、確認のため、出てきたアルファベット・カードを順に黒板に貼っていく。 No.1: JSEAMTPNBFHORHC カードを指さし聞く。What's this? It's "W". 答え合わせをする。 ※No4まで同様に繰り返す。 No3: WAY7BQZC162N121319UG17MFW つないだものが何を示しているか答えさせる。 What's this? It's a pineapple. 答え合わせをする。 ※No4も同様に行う。	・指導者は、わざと小さな声で言ったり、速く言ったりして、児童がもう一度聞きたくするような場面を設定し、"Once more, please?" "slower?"と声をかけて、やがて児童がこれらを自発できるようにする。 ○アルファベットの文字の読み方を聞いて、どの大文字アルファベットかが分かる。<観察>	英語ノート CD 大文字アルファベット・カード
	【Let's Play2】 ・ミッション・ゲームをする。 グループで一列になり、指導者が行うアルファベットを順に伝えていく。最後の児童が、そのアルファベット・カードを順に黒板に貼る。	・ミッション・ゲームをする。 ①グループで一列になり、最後尾の児童が巻末大文字アルファベット・カードを1セット用意する。 ②指導者は、各列の先頭の児童に、アルファベットをいくつか聞かせる。(児童の実態に応じて、例えば、B, D, Pなど形のよく似た文字を一度に使うなど工夫する。) ③自分のすぐ後ろの児童に、聞き取った順にアルファベットの読みを伝言ゲーム形式で伝えさせる。 ④再後尾の児童まで順に伝えさせる。 ⑤最後尾の児童に、自分が持っているアルファベット・カードから聞いた順にカードを取り出し、順に黒板に貼らせる。 ⑥答えを確認し合わせる。	・形のよく似た文字を一度に扱うことにより、児童のアルファベットの文字の認識を高めるようにする。例えば、B/D、P/R、C/G、O/Q、E/F/H、L/T/I、J/L/T、M/N/Wなど。	大文字アルファベット・カード
挨拶 3	・本時の振り返りをする。	・主に英語を使おうとする態度面について評価する。	・主に英語を聞いたり、話したりすることについて評価する。	
	・挨拶をする。 See you. Good-bye.	・挨拶をする。 See you. Good-bye.	・挨拶をする。 See you. Good-bye.	

### Lesson3 第1時「自分の誕生日の英語を知ろう」<6年生>

目 標:日本の季節の行事や特徴を伝え、英語での月の言い方

扱う表現: January(1月)、February(2月)、March(3月)、April(4月)、May(5月)、June(6月)、July(7月)、August(8月)、September(9月)、October、(10月)、November(11月)、December(12月)

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	指導上の留意点	教材
				○評価の観点(方法) △国際理解の視点	
挨拶 5	・挨拶をする。 Hello, I'm fine/happy/hungry/sleepy.	・全体に挨拶した後、数名の児童と挨拶をする。 Hello, how are you? Are you good/fine/sleepy?		・これから授業が始まることを意識させるように、指導者は元気よく挨拶する。	
導入 5	・指導者の誕生日の行事や特長を知ったり、答えたりする。 「お正月」「お年玉」「鏡餅」「年賀状」「初詣」「成人式」	・月絵カードを見せながら、誕生日を紹介する。 <紹介の例> (Hは担任、AはALT) H: My birthday is April 9th. In April there are cherry blossoms, the entrance ceremony. Spring is a beautiful season. ~sensei, When is your birthday? A: My birthday is January 14th. In January we have New Year's Day, snow, skiing. H: January,他にどんなことがあるかな。 ・児童の答えに応じて、絵カードを提示する。ALTは、英語で表現できるものは、英語で表現する。		・月については、児童にとって、最も身近である誕生日から導入することにより、月日の表現に興味をもたせる。 ・学級担任一人で指導し、発音に自信がない場合は、CDで月名を児童に聞かせてもよい。	月絵カード(CD)

展開 15	<p>・自分の誕生日を考える。</p> <p>【Activity】</p> <p>・英語ノートにある12の行事を見て、それらが何かを答える。</p> <p>・お祭りやその月特有のものから、何月かを答える。</p> <p>「12月」「2月」</p> <p>・各月の言い方を知る。</p> <p>・英語ノートにある行事の絵と月を線で結ぶ。</p>	<p>・月絵カードを黒板に貼っていく。</p> <p>When is your birthday? February? April? June?</p> <p>・英語ノート Activityにある行事の絵12枚を見るように指示し、それぞれの絵は何かを尋ね、確認する。</p> <p>Beans. 「鬼は外、福は内。」</p> <p>May? February? June? When is Hinamaturi? May? September?</p>	<p>・月絵カードを見せながら各児童の誕生月を尋ねる。</p> <p>When is your birthday? In January? In March? 絵カードを見せながら繰り返し英語を言う。</p> <p>・英語ノート Activityにある絵を捉えて、それが何月と関係しているか尋ねる。</p> <p>Koinobori. Which month? January? May? April?</p>	<p>・当然、児童は、英語での月名は知らないため、指導者は、月絵カードを見せながら"January?"などと、何度も月名を聞かせる。児童に月名を知らせる大事な場面であるので、指導者は意識して繰り返し何度も児童に聞かせる。</p> <p>・ALTだけでなく、学級担任も、取り扱う使用表現の英語は、できるだけ繰り返し発音して聞かせる。</p>	月絵カード
展開 5	<p>【Let's Listen】</p> <p>・CDを聞いて、英語ノートに国名と月とを書き入れる。</p> <p>Halloween. Christmas.</p> <p>・答えを確認する。</p>	<p>・英語ノートを開き、CDを聞いて、それぞれの行事が何月にどこの国で行われているかを聞き取って、ノートに記入するよう指示する。</p> <p>In America, Halloween is festival in October. (アメリカでは、ハロウィンは10月に行われるお祭りです。)</p> <p>In China, the New Year's Festival is in February. (中国では、新年のお祭りは2月に行われます。)</p> <p>Christmas is in December. In Australia, Christmas is in summer. (クリスマスは12月に行われます。オーストラリアではクリスマスは夏にあります。)</p>	<p>・すぐにCDを聞かせるのではなく、ノートにある3つの行事の様子を児童に質問しながら紹介することにより、CDに内容を想像し、興味を起こさせる。</p> <p>△世界には様々な民族がいて、それぞれの行事を楽しんでいることを知らせる。</p>	英語ノート CD	
展開 5	<p>【Let's Play】</p> <p>・キー・ワード・ゲームをする。</p>	<p>&lt;キー・ワード・ゲーム&gt;</p> <p>ペアになり、二人の間に消しゴムを置く。指導者が発音する語を児童が繰り返す。あらかじめ決めておいたキー・ワードを指導者が発音したら、児童は繰り返さず無言で消しゴムを取る。早く消しゴムを取った方が勝ちとなる。</p> <p>・ゲームのやり方をデモンストレーションで示す。</p> <p>①ペアになり向かい合わせる。</p> <p>②月の中から1つキー・ワードを決める。</p> <p>③例えば、Mayをキー・ワードにすると、「June (指導者)、June (児童)、手を2回叩く」のパターンで、12ヶ月からいくつか選びながら繰り返し、指導者がMayと言ったら、児童は、繰り返さず無言で消しゴムを取る。</p> <p>④キー・ワードを替えてゲームを繰り返す。</p>	<p>・学級担任が一人で授業を行う場合は、一人の児童を前に出し、一緒にやりながら説明する。</p> <p>・慣れてきたら、児童に"When is your birthday?"などと尋ね、児童が答えた月名をキー・ワードにするなど、ゲームへの意欲を高めるようにする。</p> <p>○指導者の後について、英語で単語を言おうとする。&lt;観察&gt;</p>	月絵カード	
展開 5	<p>【Let's Chant】</p> <p>・CDを聞いて、指導者と一緒にチャンツをする。</p>	<p>・CDをかけ、黒板に貼った月絵カードを指さしながらチャンツする。</p>	<p>・児童が慣れるまで、ゆっくり言うようにする。</p>	CD 月絵カード	
挨拶 5	<p>・本時の振り返りをする。</p> <p>・挨拶をする。 See you. Good-bye.</p>	<p>・主に英語を使おうとする態度面について評価する。</p> <p>・挨拶をする。 See you. Good-bye.</p>	<p>・主に英語を聞いたり、話したりすることについて評価する。</p> <p>・挨拶をする。 See you. Good-bye.</p>	<p>・児童の態度や英語面についてよかったところを具体的にあげ、児童に次時の意欲を高めるようにする。</p>	



## 1.2 クラスルーム・イングリッシュ

あいさつや指示、質問、依頼、激励など、英語の授業等で使われる表現をクラスルーム・イングリッシュと言います。これは、外国語活動の雰囲気作り、また、多用することにより、児童が一生懸命に教師の英語を聞こうとする態度を引き出すものになります。

クラスルーム・イングリッシュを用いるときは、普段日本語で児童に話すときと同じように、児童の理解の程度を確かめながら、ゆっくり、はっきり、児童の目をしっかり見て言うことが大切です。

次に示すのはクラスルーム・イングリッシュの一例ですが、指示を出す際に用いる場合は、文頭や文末に please を加えると丁寧な言い回しになります。

### <あいさつ1 (GREETINGS 1) >

- ① おはようございます。(Good morning.)
- ② こんにちは (皆さん)。(Hello/ Good afternoon /everyone.)
- ③ 元気ですか。今日の調子はどうですか。(How are you? How are you today?)
- ④ 今日は何曜日ですか。(What day is it today?)
- ⑤ 今日の天気はどうですか。(How's the weather today?—It's sunny)

### <あいさつ2 (GREETINGS 2) >

- ① 今日はこれで終わります。(That's all for today./ We're finished.)
- ② 今日の授業は楽しかったですか。(Did you enjoy today's class?)
- ③ また次回(来週)会いましょう。(See you next time/ next week.)
- ④ さようなら。(See you. /Good-bye.)

### <授業開始 (BEGINNING CLASS) >

- ① 立ってください。(Stand up, please.)
- ② 座ってください。(Sit down, please.)
- ③ 席に戻ってください。(Go back to your seat.)
- ④ 準備はいいですか。(Are you ready?)
- ⑤ 始めましょう。(Let's begin./ Shall we begin?)

### <ほめる (PRAISING) >

- ① 正解です。(That's right.)
- ② よくできました。(Good./Great./Good job./Well done.)
- ③ 素晴らしい。いいね。(Wonderful!/Excellent!/Perfect!)
- ④ (どうも) ありがとう。(Thank you (very much).)
- ⑤ (彼・彼女) に拍手しましょう。(Let's give (him/her) a big hand.)

### <基本表現 (BASIC CLASSROOM ENGLISH) >

- ① テキストの5ページを開いてください。(Open your textbook to page five.)
- ② これをしっかりと見てください。(Look at this carefully.)
- ③ 手を挙げて(下げて)ください。(Raise your hands./Put your hands down.)
- ④ 絵を指差してください。(Point at the picture.)
- ⑤ 静かにしてください。話をやめてください。(Be quiet./ Stop talking.)